

## 日本国債ってセクシー

朝日新聞 10.08.04 の「日本@世界」では日本の国債の現状を概略以下のように解説しています:

### 「日本の国債が安定している特異的な国債保有構造」

『セクシー ？？』何故このような標題となったかということ、米ハーバード大学のグレグ・マーンキュー経済学教授の人気ブログに最近『国債ってセクシーなの？』との見出しがお目見えしたことにある。そもそもその発端は、日本の財務省が個人向け3年満期国債を募集した際、その広告に5人の若い女性を登場させ、『堅実な資産形成(国債保有)をする人、好きです』と婚活男性向けに呼びかけたことが外電で報じられたことにある。そこで教授のブログでは理想の結婚相手像を緊急調査！ 結論は、『…モテる！！…か！？』

外電は『破れかぶれという感じ』との市場評価を伝えている。保有高が多くモテる順位は、一位はゆうちょ銀行で150兆円以上、公的年金が80兆円、かんぽ生命70兆円、生損保60兆円、日本銀行60兆円、企業年金基金30兆円などが大口顧客である。総発行額の6割がこれら金融機関で、95%は日本の投資家が保有している。最近では新興中国が期間一年以内の短期債を中心に買い込んでいる。そのようにして日本政府は年間160兆円もの国債を発行している。戦争に負けた訳でもなく、大震災があった訳でもないのに…。1985年以降の政権のバラマキとデフレのツケで借金超大国となった。今年度予算は税収37兆円に対し、国債発行額は44兆円で、こんなことは敗戦の廃墟の1946(昭和21)年度予算以来初めてのことだ。

### 最大のリスクはゆうちょかもしれない

カネが余っているので、それが国債投資に回り、国債相場は高止まりし、長期金利は低位安定している。この背景には、日本の貯蓄がまだプラスであること、経常収支も黒字であること、依然としてデフレにあえいでいること、企業の設備投資は振るわず、銀行は持て余したカネで国債を買い続ける。もはや国債バブルといってもよいのだが、低温状態でふかしている状態で、バブルにつきものの熱気はない。このまま安定的に推移するのだろうか。リスクは高まっている。高齢化が進んでおり、貯蓄の取り崩しが加速する。貯蓄率が低下すれば、金融機関から国際市場への資金流入も細る。ゆうちょで集めた貯蓄の80%は国債で運用しており、この貯金はいつでも下ろせる。国債暴落となれば巨額の貯金が下ろされ、それに対応するため国債を売れば更に暴落する。ゆうちょの経営危機に発展すれば国際市場を根底からゆすぶりがかねない。

### 特異的な国債保有構造の脆弱性

6月のG20では、リーマンショックで財政が悪化して先進国は、2013年度に赤字を半減すると宣言したが、国内で国債が消化される特異な市場環境の日本は、例外としてこのG20の誓約に加わらなかった。しかし、この特異性は脆弱性に暗転する危険があるとして、以下のように解説している:

1. 同質性と同調性 ゆうちょと簡保の資金は長年、政策金融の制度的枠組に組込まれてきた。政府と市中銀行は金融行政の下で染み付いて横並び意識が抜けきれない。いずれも国債依存が高い。国債が値崩れするとリスク管理上、国債を一齐に投げ売る虞が強い。03年の国債一時急落の時がそうだった。
2. 鎖国性 鎖国性ゆえに、国債ヘッジファンドが空売りをかけても弾き返してしまうという強みを持つが、ただ、それゆえにリスクを共有する海外の多数の顧客、つまり利害関係者とのネットワーク形成が広がらない。国債暴落となれば、日本から海外に大量のカネが流出し、円が暴落、世界経済に大きな影響を及ぼすことは必至。そうなった時、利害関係者の少ない日本は国際的に孤立する虞がある。

### 対策の可能性は？

IMF(国際通貨基金)は先月の対日月次報告で、『これ以上財政再建を遅らせれば公的債務残高は持続不可能なほどの水準になる』と警告し、消費税を段階的に引き上げる勧告をした。

市場は来年度予算の規模と成長戦略の実効性を容赦なく点検して、政治力と政策決定力を試してくる。日本の持ち時間は『長くて3、4年』と市場もIMFも見ているようだ。

09年9月、当時の藤井財務相は『格付け会社とは日本の国債を狙っているんだ。そういうことになったら大変だ』と発言、仙谷行政刷新大臣が「おっしゃるとおり、この政権で一番大事なことはボンド(国債)市場の安定です」と応じた。」

## 「窓 編集委員室から『筆づくり』」

チョット古い情報ですが、7月22日の朝日新聞は「ものづくり」に関して以下のように意見を述べています：

「東京・かんだ神保町の古書店街で書道用品を扱う玉川堂。滝沢馬琴もひいきした老舗だ。現社長の斉藤彰さんが語る筆の歴史からは、東アジアのものづくりについての深い示唆がにじむ。

中国で筆が開発されたのは秦のころ。羊の毛という優れた素材に恵まれ、書きやすい道具を容易に作る事ができた。それ故か、更に洗練する機運は生まれなかった。空海が製法を伝えた日本では良い毛がなく、鹿などで代用しながら筆の作り全体を改良して機能性を高めようとした。江戸時代には下級武士の内職が製造を担った。労力と工夫を惜しまない武士道精神が、丈夫で長持ちし、用途に応じて多様な筆を生んだ。明治以降、筆は日本土産の定番として挑戦、台湾を含む東アジアで愛用された。戦後、日本の筆作りが中国に移植されたが、中国では豊かになるとものづくりをやめる人が多い。儲かるなら古来の製法もさっさと捨てる。似た話は19世紀にインド、中国、日本が前後して参入した綿織物産業にもある。インド人、中国人も財をなすと、製造現場への関心を失いがちだという。日本人は趣味の盆栽をいじるように機械の改良を続け、優位に立った。ITなど技術伝播が早い世界は違うかもしれない。だが、東アジアがより豊かになり『良いものに相応の金を出す』経済圏になれば、日本の国柄も新たな面目を施すのではないか。(川戸和史)」

## 「宇宙震」て、知っていましたか？

8月初めの朝日新聞の科学欄でNASAが「宇宙震」の観測を成功したことを以下のように報じている。

「大地が揺れる地震のように、地磁気が大きく揺れる『宇宙震』を、米NASAの磁気圏観測衛星テミスが初めて観測した。エネルギーの大きさが地震のマグニチュード(M)5~6に相当するものもあり、地上の観測でも確認できる場合があるという。地球が作る磁場(地磁気)は、太陽から噴き出す高速の電子など(太陽風)のため、吹流しのように太陽の反対側(夜側)に引き伸ばされている。その部分は無理に伸ばされたゴムのような状態で、時々ひずみが開放されると予想されていた。違う高度を飛行する5基の衛星から構成されるテミスは、2007年2月の打上げ直後から、こうした現象を実際に観測。地磁気が引き伸ばされた部分にたまっている太陽風の粒子がひずみの開放とともに地球の上空に突進し、地磁気が揺れる宇宙震が起きる。研究チームのバシリス・アンゲロプロス・カリフォルニア大ロスアンゼルス校教授によると、宇宙震は10分程度続き、毎日数回起きている。大きなものは年に一回程度という。太陽活動の寝誰が原因の磁気嵐とは別の現象だが、宇宙震でもオーロラの発生や無線通信の乱れなどが発生する。月や太陽でも振動現象が知られており、それぞれ月震、日震と呼ばれている」

## 本格化するEUの鉱物資源戦略

日経エコロジー9月号のWorld TrendでEUの鉱物資源戦略を報じている。以下概略。

「欧州委員会は14種類の重要な鉱物資源を指定した。これらは表に示すように産出国は特定の少数の国に集中しており、その需要は2006年比で2030年の3倍になるという。EUの専門家グループは、輸入リスク、EU域内での生産リスク、環境リスクがあることを特定しており、今後の代替材料の発見も勘案して5年ごとに更新する。この秋に鉱物資源へのアクセス戦略に関する指針を発表する予定。

鉱物資源名	拡大する新たな用途	産出国
ガリウム	薄膜太陽電池、IC、WLED	中国
ネオジウム	永久井磁石、レーザ技術	中国 95%
インジウム	ディスプレイ、薄膜太陽電池	中国
ゲルマニウム	光ファイバー、赤外線技術	中国
プラチナ	燃料電池、触媒	露
タンタル	コンデンサ、医療技術	コンゴ、伯
銀	RFIC、鉛フリー半田	

鉱物資源名	拡大する新たな用途	産出国
コバルト	リチウムイオン電池、合成燃料	コンゴ
パラジウム	触媒、海水淡水化、水素吸蔵	露、南阿
チタン	海水淡水化、インプラント	
銅	モータ、RFIC	
ニオブ	コンデンサ、高張力鋼	伯
アンチモン	コンデンサ	中国、南阿
クロニウム	海水淡水化	

(著者コメント:リーマンショック以降、各国の経済対策は公的資金の利用に集中。このため先進各国の公的債務の動向が今後の重要な監視対象としてIMFが警告。但し、日本は95%が国内保有でIMFは監視対象外に。...国がうちよ会社をガッチリと抑え込んでおくことが必要...まだまだ増発し続けなければならないからだ。うちよの民営化にはこのような背景があるのだ。ところで、円が買われる要素として公的債務の国内保有の安定性が評価されているのだから、国内の銀行などがどれほど愛国的なのだろうか、買いかぶってはいはしまい?)

